

ホホホのペンテコウんどう

文：小川結希・田之下雅之

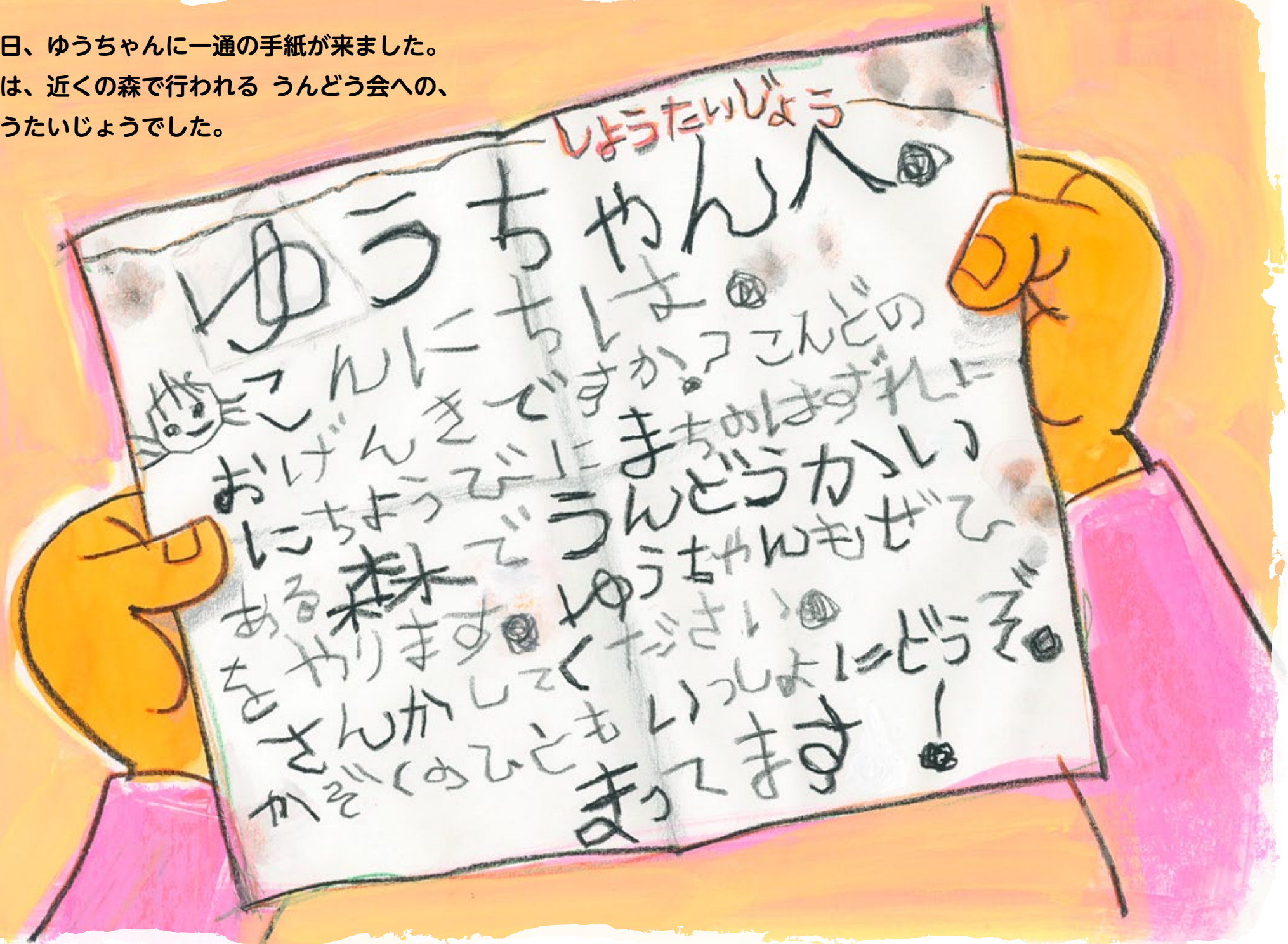
絵：サイトウマサミツ

よんであげるなら 5才から

じぶんでよむなら 小学校 2年生から



ある日、ゆうちゃんに一通の手紙が来ました。
それは、近くの森で行われる うんどう会への、
しょうたいじょうでした。



「うんどう会 楽しそう♪ わたし、だ～いすき」
うんどう会の日、おべんとうをもって、
家ぞくみんなで その森に行きました。





行ってみると、それは なんだかへんな うんどう会。
かけっこも 玉入れもないし、ほかのさんかしゃは どうぶつや鳥たちです。
「はじめのレースは、ぐいぐいササのひっこぬきレースです！」



「よ〜い、ドンッ！」
さあ、いよいよ はじまりました。



へんなレース! と思ったけど、
ゆうちゃん は がんばって ひっこぬきます。
でも、ぬくのは たいへん!
「お兄ちゃ〜ん、お父さ〜ん、手つだって〜」
3人で よいしょ よいしょ



「はい、おわり～！みんなよくぬきましたねえ。

1位は、ゆうちゃんです♪」

「やった～！」ゆうちゃんは、いっきに楽しくなってきました。



「さあ、つぎのレースは、ぷりぷりウンチの人気きょうそうです！」

「え～！ そんなあ！ はずかしいよお」

「よ～い、ドンッ！」

あららっ。ゆうちゃん、こんどは まけちゃいそう・・・





「はい、おわり～！」

「みんな いいウンチが出ていますねえ。

どれどれ、ウンチを食べる虫に一番人気なのは・・・」



ここも
よんでみよう

「シカさんの ころころウンチで～す！」
ゆうちゃんは、ウンチができず、
やっぱり まけちゃいました。

ちょっとここでひとやすみ。

みんなで力を合わせて、木を切り、ベンチを作りました。

少し明るくなった森に、気持ちのいい風がふきました。



こも
よんでみよう



「いよいよ さいごのレースになりました。

さいごは、ほくほく やきいもきょうそうです！」

「よ〜い、ドンッ！」

ゆうちゃんは、おじいちゃんに教えてもらいました。

「おちばをあつめて、おちばの上に えだをのせて、マッチをすって、

火をおちばに つけるんだよ。枝に火がついたら、はじっこに サツマイモを入れてごらん。」



「はい、おわり～！！ いいにおいは どこからかなあ・・・
クンクン・・・クンクンクン・・・ゆうちゃんが1位～♪」
「やった～！ やきいも おいしそうだなあ。」



ゆうちゃんは、みごと ゆうしょうすることができ、
おちばペンダントとえだトロフィーを もらいました。




「ねえ、タヌキさん、なんで こんなヘンテコな うんどう会をやったの？」

タヌキは教えてくれました。

「じつは・・・この森は、里山（さとやま）といってね、むかしは しぜんも いきものも
多いところでした。たくさんの人間も、この里山をまもりながら くらしていました。」





「でも、だんだん人間がいなくなり、それによって
しぜんが わるくなってしまったのです。
だから、里山がまた元気になるために
みんなに お手つだいをしてもらいたかったのです。」



「ササをぬき、木を切るのは、森に光がはいて、草や花がそだち、それを食べる生きものを あつめるためです。そして、その生きもののウンチは、他の生きものの エサになったり、土を元気にしたりします。」



「やきいもは なんですか?」

「木のえだを 切ってつかったり、おちているえだをひろってつかうのも、
森が元気でいるのに大切なことなのです。それに楽しくて、おいしいでしょ♪」



ゆうちゃんは、うんどう会をしたら、森をまもれることにビックリ。
それに、すごく楽しかったから、
毎月1回 お友だちとヘンテコうんどう会を ひらくことにしました。



いつか、里山の森が元気になるために・・・





いろんな いきものが くらせるばしょを まもるために、
わたしたちにも 楽しみながら できることがあります。



最後に(保護者の方へ)



都市と私たち ①

私たちが生活の中で使っているあらゆるものは、自然からの与えられたものです。例えば、飲み水は川や地下水から、電気は主に石油や石炭から、そしてお茶碗は土からできています。全て地球にある自然のものを使っています。すべては自然の恵みなのです。



都市と私たち ②

私たちの食べものの60%は、海外から船や飛行機で運ばれ、たくさんの石油が使われています。一方で、新鮮さや安全性、環境に配慮し、私たちが住む地域で採れたものを食べる『地産地消』が注目され始めています。私たちが食べるものは、どちらも自然の恵みがあってこそなのです。

山と私たち

山には空から降った雨が地中へ浸透し、川となって私たちに飲み水を与えてくれます。そこにはたくさんの野生動物がくらしています。一方で私たちにとっては、林業や登山の場になっています。



私たちと自然と 生きものつながりマップ

私たちは様々な自然、いろんな生きものに
支えられて生活をしています。

私たちと自然、生きものつながりを
見てみましょう！



里山と私たち

里山は都市と山の間にあり、人と自然が共存している場です。田んぼには、ミジンコなどの微生物、それを食べるカエルやドジョウ、またそれを食べる野鳥など、食物連鎖の関係が見られます。更にそのフンなどが養分となり、私たちが食べるお米となります。

海と私たち

私たちは海から魚介類などたくさんの食糧を得ています。また海は大きな水循環(海→水分蒸発→雲→山に移動→冷やされる→雨→川→私たちの飲み水)の源であり、私たちの暮らしを支えています。

この絵本を作った人

作 _____

小川 結希（おがわ ゆうき）

東京都福生市生まれ、幼少期は木登り、木の実や草を食べ回る、生きものは何でもつかむ・・・と、自然の中を駆け巡る日々を過ごす。大学時代に素敵なインタープリター（自然や文化などについてわかりやすく伝える人）に出会い、インタープリターになることを決める。そして、大学卒業後、自然教育研究センターに入社し、念願のインタープリターとして活動できるようになる。現在も、日々楽しく楽しいインタープリター人生を堪能中。

絵本は子どもの頃から大好きで、しょっちゅう本屋さんに行っては、「チェック→惚れる→つつい買い」を繰り返すほど・・・。

田之下 雅之（たのした まさゆき）

富山県富山市生まれ。幼少より自然の中で遊ぶことが大好きで、大学時代は子どもキャンプのスタッフに明け暮れる日々を過ごす。卒業後は環境系企画会社にて企画プロデュースの手法を学び、3年後の2000年に独立。現在、株式会社Tクラフト・プラスの代表として、「子ども」「環境」「創造」をテーマに、企業や自治体等の様々なイベントの企画運営、体験プログラムの開発などに携わる。3歳になる息子と一緒にいろんな絵本を楽しむのが趣味。

絵 _____

サイトウマサミツ

多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業。

フリーのイラストレーター。千葉県の太平洋に面したのどかな町に生まれ育つ。絵本の仕事に『はっぱはらっぱらはっぱ』『はだしになっちゃえ』共に福音館書店“ちいさなかがくのとも”等。『はだしに・・・』の英語版『Beach Feet』はアメリカで出版され、好評を得ている。

企画委員（50音順）

小川 結希 （株式会社自然教育研究センター）
京極 徹 （公益社団法人日本環境教育フォーラム）
小堀 武信 （公益社団法人日本環境教育フォーラム）
高松 敬委子 （公益社団法人日本環境教育フォーラム）
田之下 雅之 （株式会社Tクラフト・プラス）
森岡 寛貴 （株式会社ジオングラフィック）

「森のヘンテコうんどう会」は、公益社団法人日本環境教育フォーラムが事業運営、とりまとめを行い、企画委員でストーリーや作品内容を検討し、データ製作は株式会社ジオングラフィックが担当致しました。

森のヘンテコうんどう会

企画・制作：公益社団法人日本環境教育フォーラム

文：小川結希・田之下雅之

絵：サイトウマサミツ

デザイン：株式会社ジオングラフィック

©公益社団法人日本環境教育フォーラム

※この絵本は、独立行政法人環境再生保全機構
「地球環境基金」より助成をいただいています。

読者のみなさまへ

このたびは電子絵本をご覧ください、ありがとうございました。
私たちは、生物多様性の中でもたらされる生きものの恵み（生態系サービス）で生きています。電子絵本は「親子の読み聞かせを通してコミュニケーションを進め、生物多様性の大切さを広げることができれば」という思いで、3つの電子絵本制作をいたしました。皆さまは、お読みになってどのような感想をお持ちになっ

たでしょうか。

さて、電子絵本はご家庭の中だけではなく、学校の授業や社会教育施設で取り組む環境教育の中で、お使いできるものと考えております。ぜひご活用していただければ幸いです。

電子絵本を通して、生物のつながりに気づき、楽しみながら環境保全の活動に取り組むきっかけになることを願っております。

電子絵本は、パソコン、タブレット端末、スマートフォンでダウンロードができます。



「わたしはなあ〜に？」

(平成 24 年度)

テーマ：
生物はみんな同じく生きている

ゆうちゃんは、不思議な木に出会いまほうをかけられてしまいました。小さい生き物へ変身したゆうちゃん。わたしはなあ〜に？



「おばあちゃんのふしぎなメガネ」

(平成 25 年度)

テーマ
私たちは自然の恵みで生かされている

ゆうちゃんは、おばあちゃんからメガネをかけてもらいました。おばあちゃんが不思議な呪文を唱えると、周りのものがどんどん消えていきます。何が起きているの？



「森のヘンテコ運動会」

(平成 26 年度)

テーマ
生物多様性に、君も楽しく取り組むことができる

ゆうちゃんは大好きな家族みんなで、近くの森で行われたヘンテコ運動会へ参加しました。森の動物たちと楽しい時間。ヘンテコ運動会を開催していたら、森はどうなるの？

ここもよんでみよう

なんで笹（ささ）をぬくの？

夏の森は、草がのびるのが早く、とくに笹（ささ）はそのままにしておくと、どんどん生えて広がり、ほかの草花が生きられなくなってしまいます。そこでこの笹を抜けば、ほかの草花へ太陽（たいよう）の光や栄養（えいよう）をとどけることができ、森が元気になるのです。



もどる



ここもよんでみよう

なんでウンチに虫があつまるの？

それはウンチがその虫たちのゴハンになるから。コガネムシなどは、上手にうしろ足で細くしたウンチをおうちにはこび、幼虫（ようちゅう）たちのエサにします。生きもののウンチに虫があつまり、そのウンチを虫たちが食べて、またそのウンチがやがて土となり、森をささえているのです。



もどる



ここもよんでみよう

なんで木をきるの？

木をきることはわるいことのようにおもうかもしれませんが、森のなかであまりそだちのよくない木をのこしておくとも、森にたいようの光がはいりにくくなり、ほかの木や草花がそだちにくくなってしまいます。そこで、このあまりそだちのよくない木をきることによって、森に光が入り、ほかの木や草花がそだち、森が元気になります。

もどる



ここもよんでみよう

なんでおちばをあつめるの？

森につもった おちばを あつめることを「おちばかき」といいます。おちばかきは、昔、畑（はたけ）にまく肥料（ひりょう）をつくるためにやっていた。いまでは、おちばの下にかくれているいろんな草花のタネにもちゃんと光がとどき、めがだせるようにおちばかきをおこなってます。



もどる



ここもよんでみよう

里山(さとやま)って十二?

里山(さとやま)とは、たんぼやそのよこにながれる小川、カキやクリの木など、人のくらしにひつようなものをくれるしぜんのこと。そこは人がたんぼをつくったり、山しごとをすることで、いろいろな生きものがそだつところでもあります。さいきんはそんな里山のたいせつさがみなおされはじめています。



もどる



ここもよんでみよう

わたしたちができることは？

まずは、あなたがすんでいる町から近い里山をさがして、まずはおさんぽしてみましょ。草花や生きもの、そこでとれたカキやクリなどを楽しむだけでもいいのです。里山をすきになることがその自然（しぜん）をまもることにもつながります。そして、もし、その里山をまもっている人たちの活動（かつどう）があれば、参加（さんか）してみましょ。



もどる

